

## 諸注意

このマニュアルは2019年3月15日に初版が作成され、2020年2月25日に1回目の改訂、2020年3月30日に2回目の改訂、2020年10月22日に3回目の改訂が行われました。

重大な問題が発生するのを防ぐため、必ず本注意事項とマニュアルの手順に従ってOSのアップグレードを行ってください。

## 重大な問題

Windowsのライセンスは非常に複雑で多彩で微妙な問題を多数抱えており、OSアップグレードの手順で取返しがつかない問題(保有ライセンスの修復が不可能になったり、Microsoftから不正使用とみなされ法的措置が行われる等)が発生することがあります。

別紙マニュアル中に記載された手順には、この問題の発生を防ぐ手順が含まれているので、必ず記載された通りに実行し、記載された通りに実行出来ない場合は必ず京谷にご相談ください。

## アップグレード手順

Windows10へのアップグレードは、

- ①既存OSのアップグレード
- ②クリーンインストール

の2つの方法があります。

本マニュアルや各種別紙資料において、①をダイレクトアップグレード、②を新規インストールと呼称しますが、正式な呼び方ではないため、社外では通用しません。あくまで社内での呼称です。

次ページから、OSのWindows10へのアップグレードの手順になりますが、インストーラのバージョンによって手順が前後することが頻繁にあるため、目次数値通りの順番で設定画面が出なくとも、他のページに目を通して、当該項目の指示通りに入力してください。

## アップグレード作業全体の手順

別紙フローチャートを参照

## 必要時間

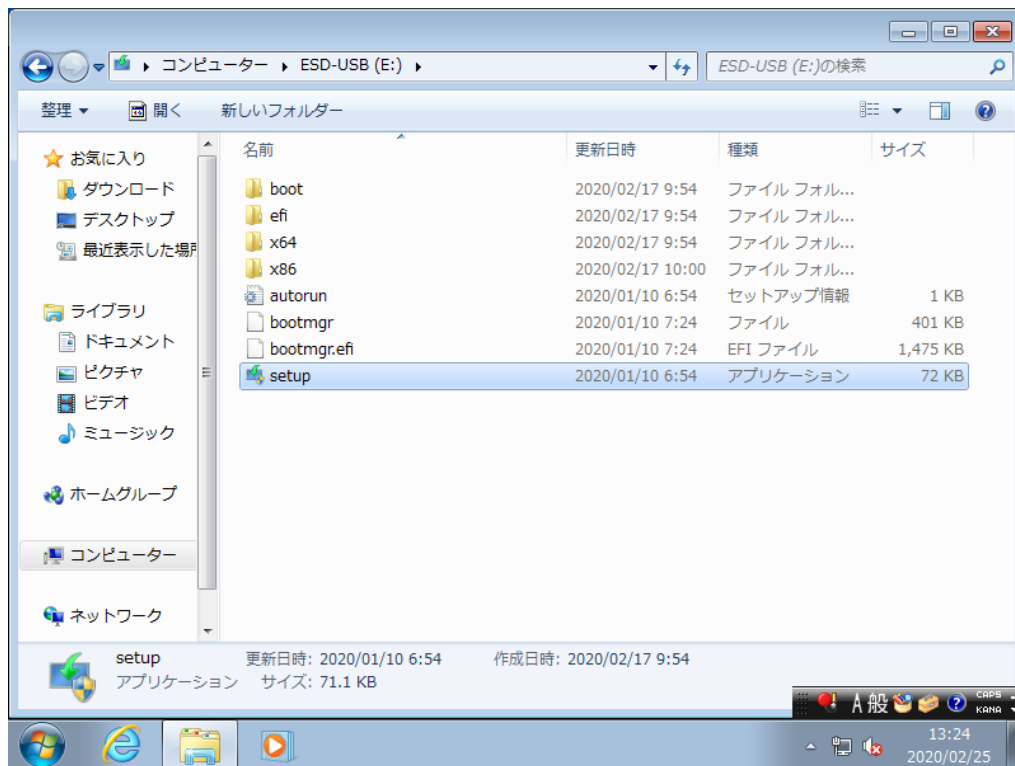
参考として、新規インストールは、CPUデュアルコア相当、メモリ4GiB相当、HDDアクセス速度は別業務と同時、USB接続が全てUSB1.1となる、仮想マシンでのインストールで、大体4時間未満で終わりました。

試験環境より低スペックのコンピュータは、当社ではノートパソコン以外稼働していないはずなので、各手順での入力事項等で詰まらなければ、アップグレードのみなら4時間かかることはないと考えられます。

ダイレクトアップグレードの手順です。

新規インストールの手順は4ページ目を参照してください。

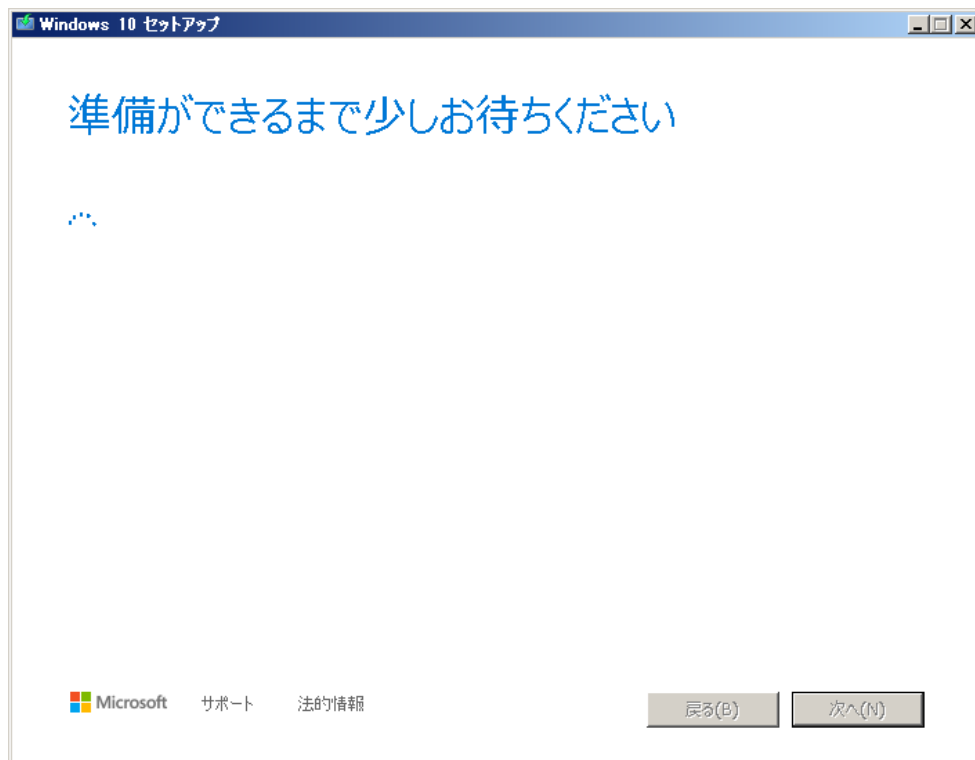
また、4Dの次は4ページ目にある、9.の手順です。



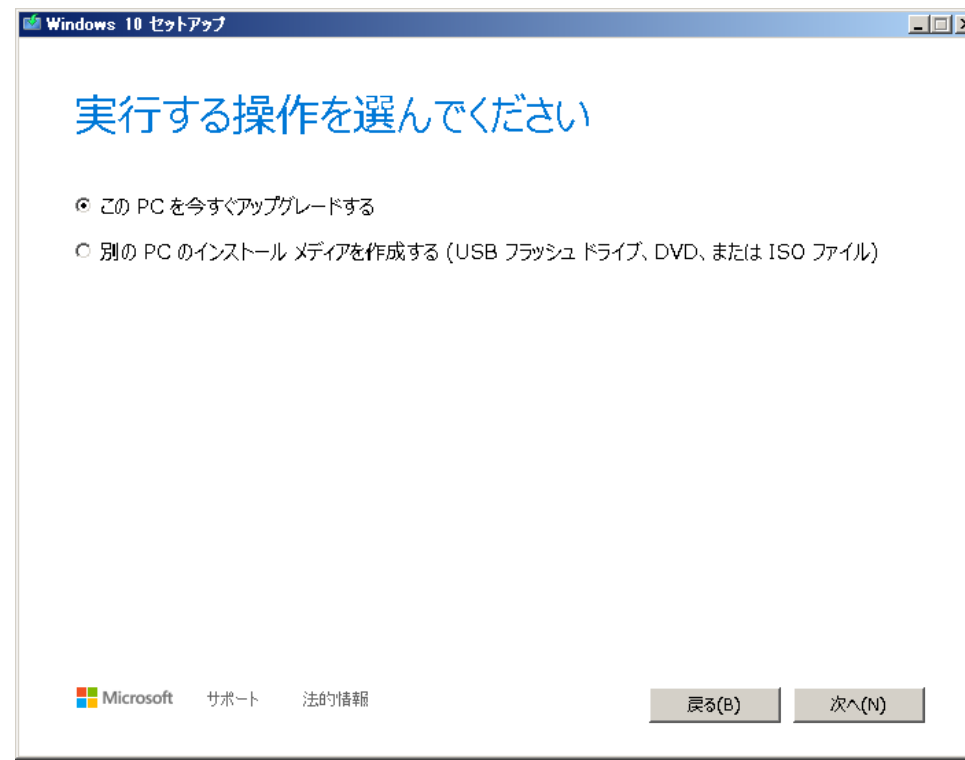
1D.インストールメディアのsetup.exeをダブルクリック。



2D.同意する(A)をクリック。

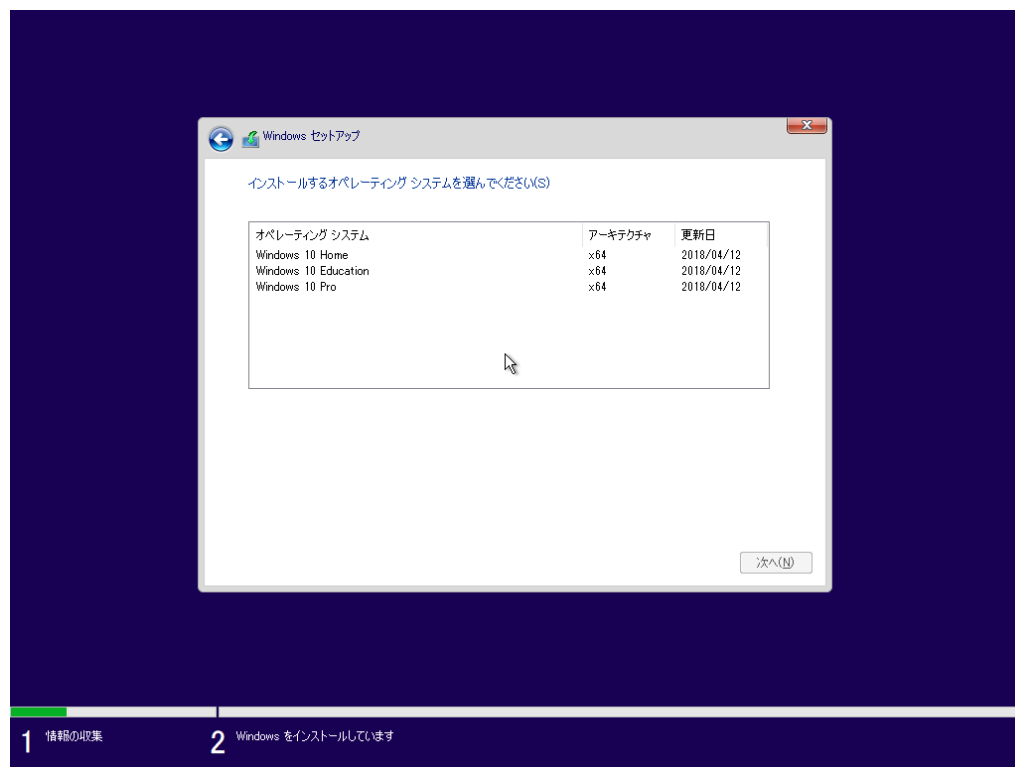


3D.待つ。



4D.このPCをアップグレードするにチェックが入った状態で、  
次へ(N)をクリック。  
以後手順9(8P目)。

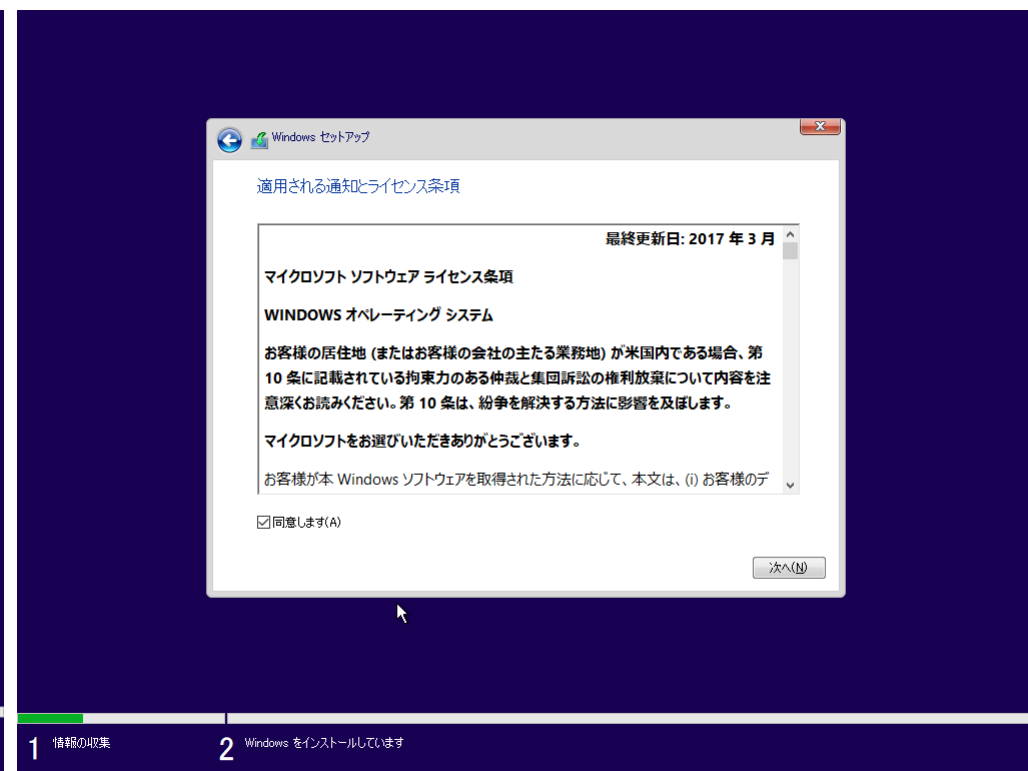
6Dの次は9ページ目にある、11.の手順です。



5D.現在動いているWindows7によって下記の通りに指定してください。

Windows7 HomePremium→Windows 10 Home

Windows7 Professional→Windows 10 Pro

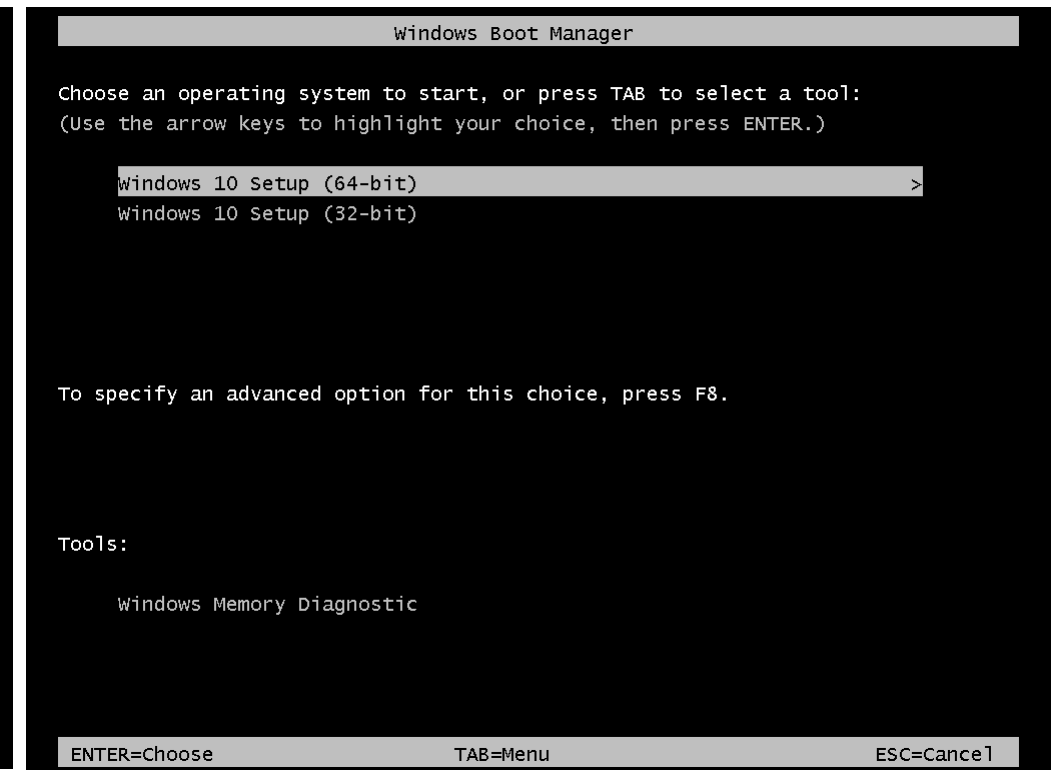
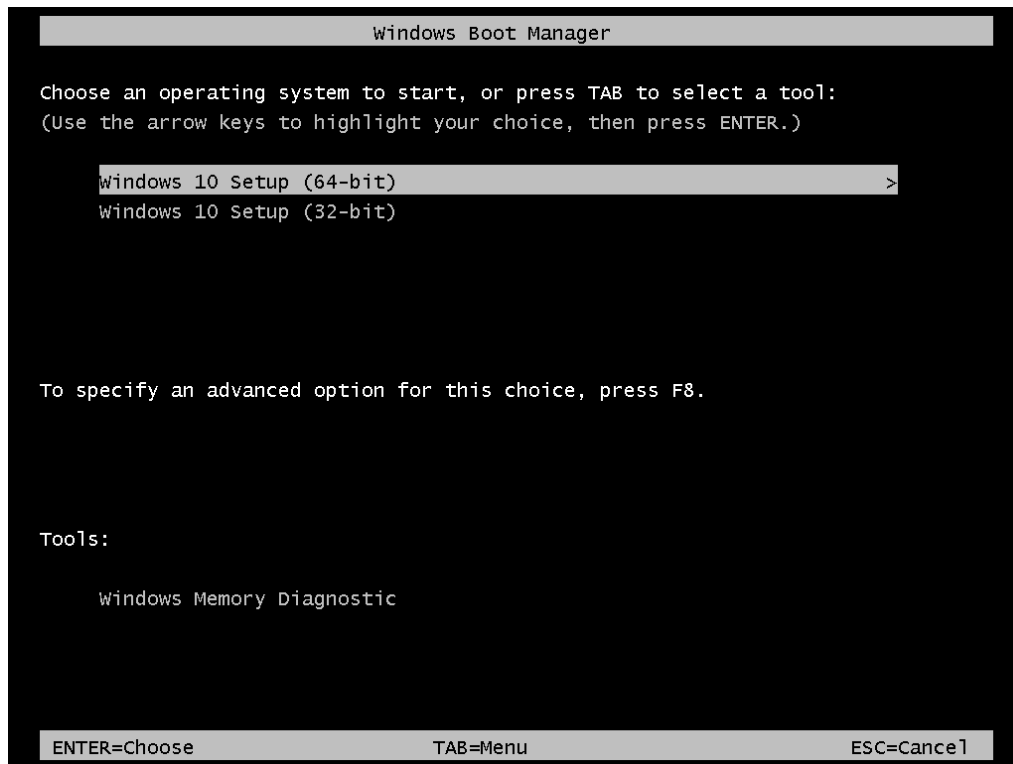


6D.同意しますにチェックを入れ、次へをクリック。

新規インストールの手順です。

ダイレクトアップグレードの手順は2ページ目を参照してください。

また、8Nの次は9ページ目にある、11.の手順です。

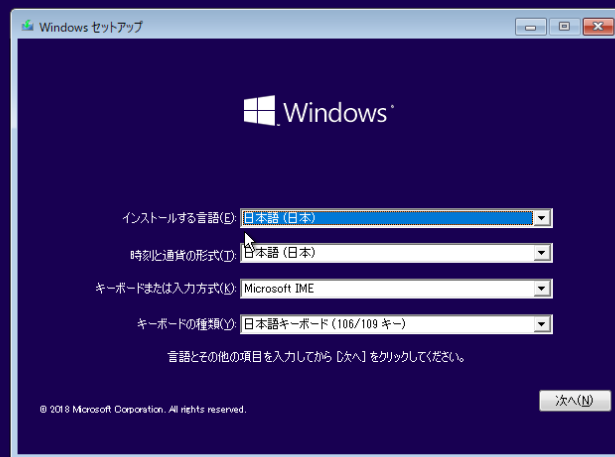


1N.ハードウェアを準備します。具体的には、

- データ移行手順で確認した、CドライブがあるHDD以外は全て、電源ケーブルかSATAケーブルを外す
- LANケーブルを外す

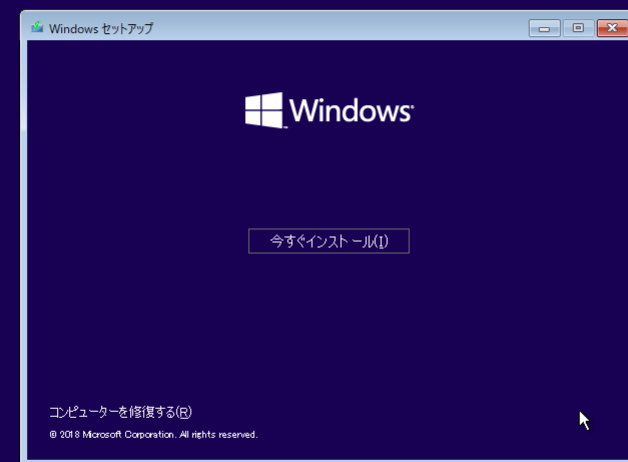
2N.必ずWindows 10 Setup (64-bit)でスタートしてください。

例えメモリ搭載量が32bitで認識出来る範囲であっても、32bit OSが動いていると、CPU性能が下がります。

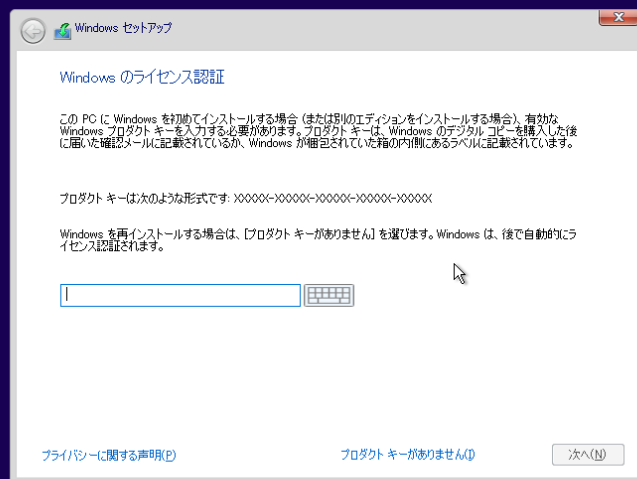


3N.次へボタンをクリック。

LANケーブルが外れているか確認し、付いている場合は取り外してください。

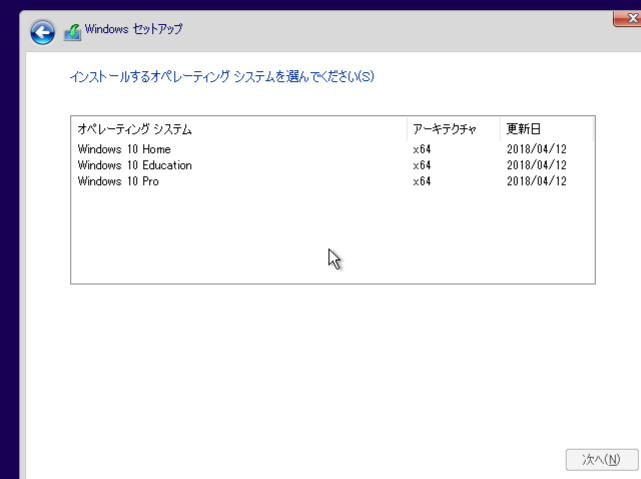


4N.今すぐインストールをクリック。



1 情報の収集 2 Windows をインストールしています

5N.『プロダクト キーがありません』をクリック。



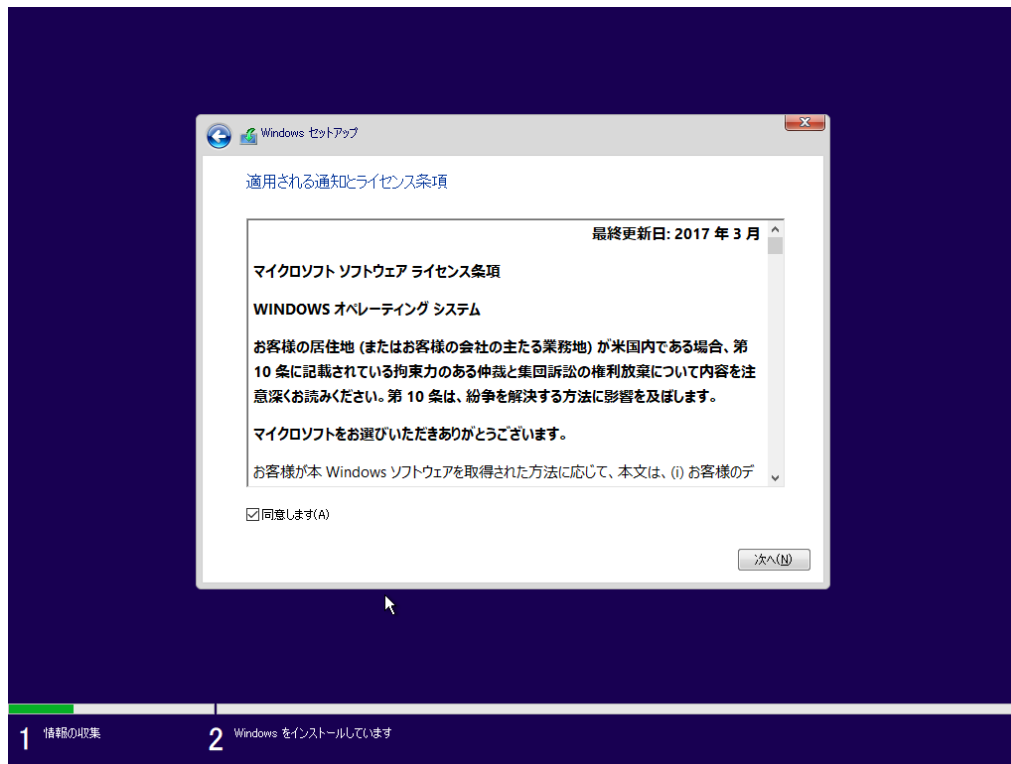
1 情報の収集 2 Windows をインストールしています

6N.現在動いているWindows7によって下記の通りに指定してください。

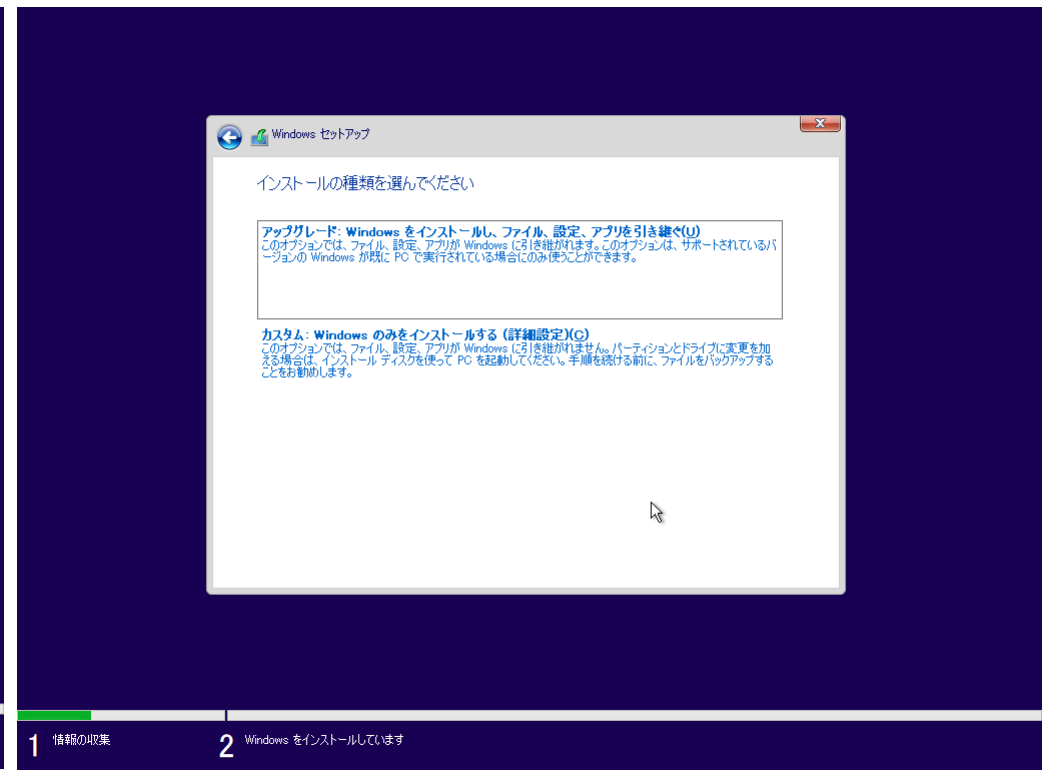
Windows7 HomePremium→Windows 10 Home

Windows7 Professional→Windows 10 Pro

8Nの次は9ページ目にある、11.の手順です。



7N.同意しますにチェックを入れ、次へをクリック。



8N.カスタム:Windowsのみをインストールするをクリック。





1 情報の収集 2 Windows をインストールしています

11. ドライブ \* パーティションをクリックし、削除(D)をクリック。

(\*はCドライブがあるHDDの番号)

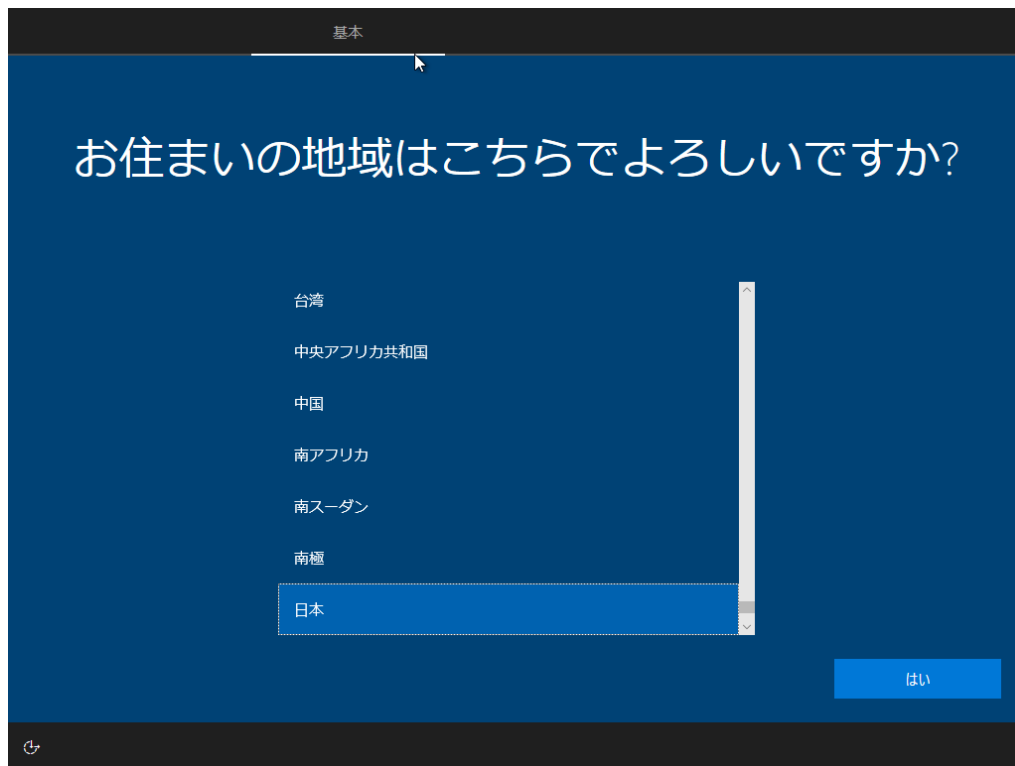
「割り当てられていない領域」のみになるまで繰り返す。

「割り当てられていない領域」だけになったら、割り当てられていない領域をクリックし、次へをクリック。

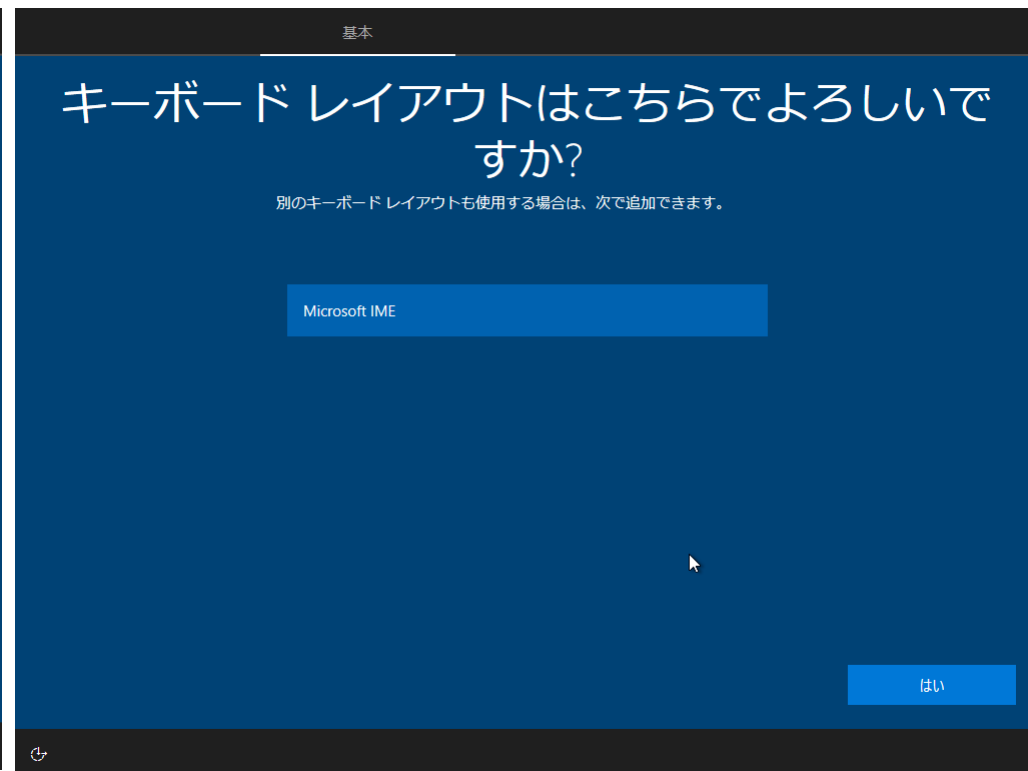


1 情報の収集 2 Windows をインストールしています

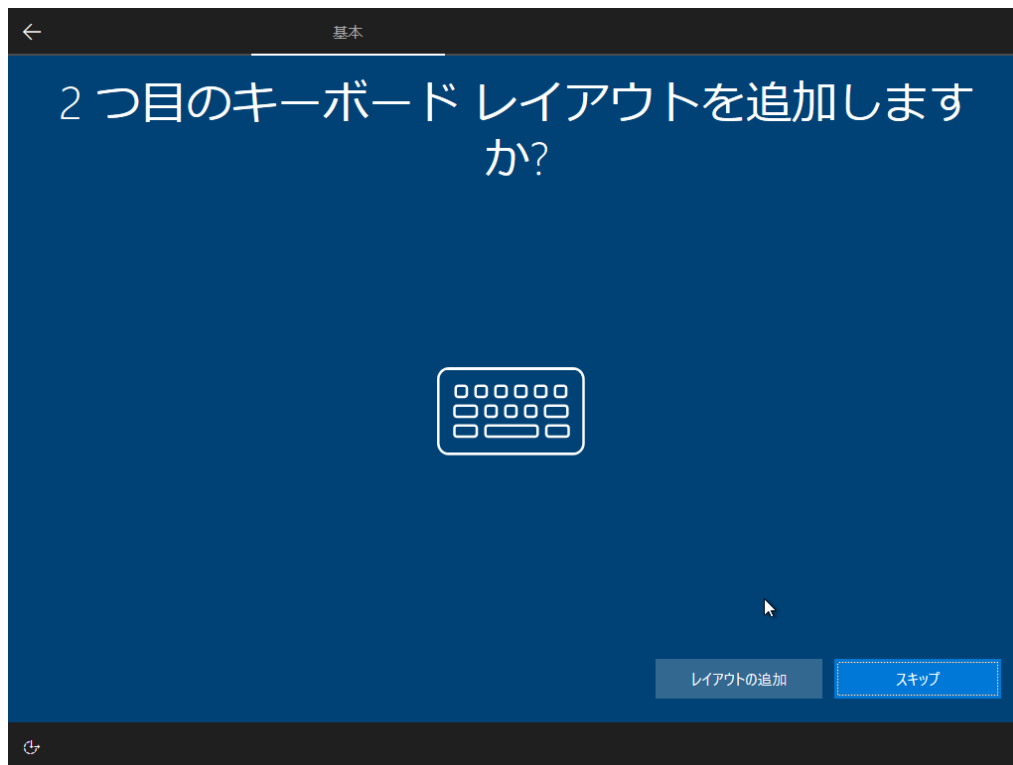
12. かなり時間がかかるので、別の作業を行って、放置。



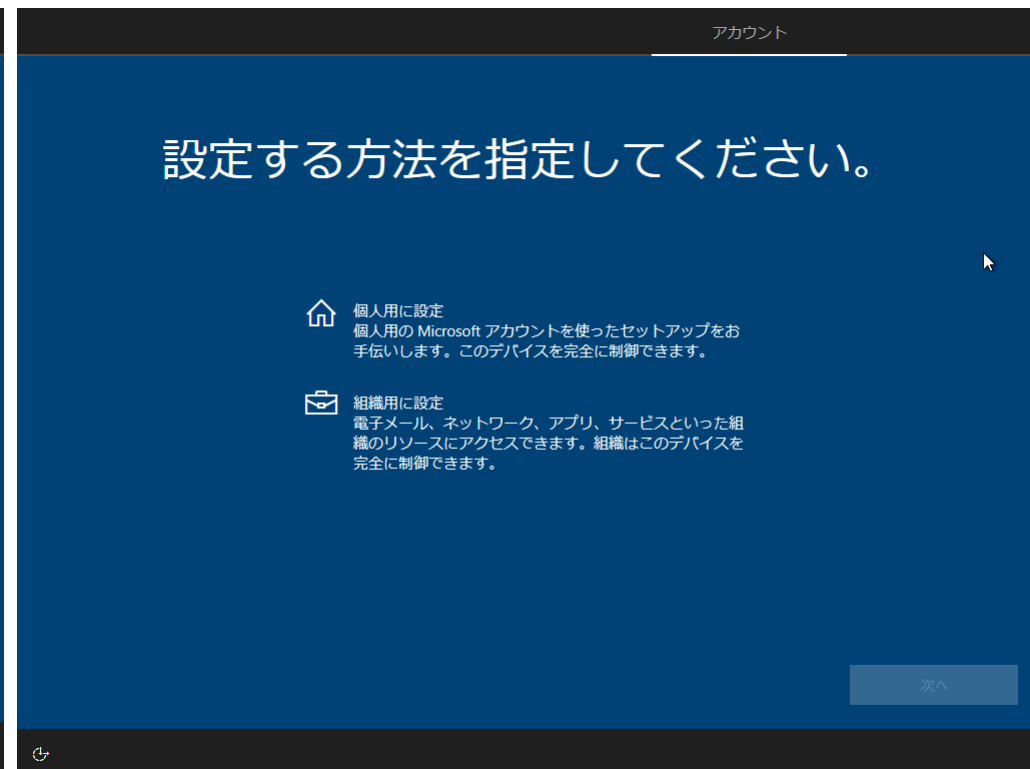
13.日本をクリックし、はいをクリック。



14.はいをクリック。



15.スキップをクリック。



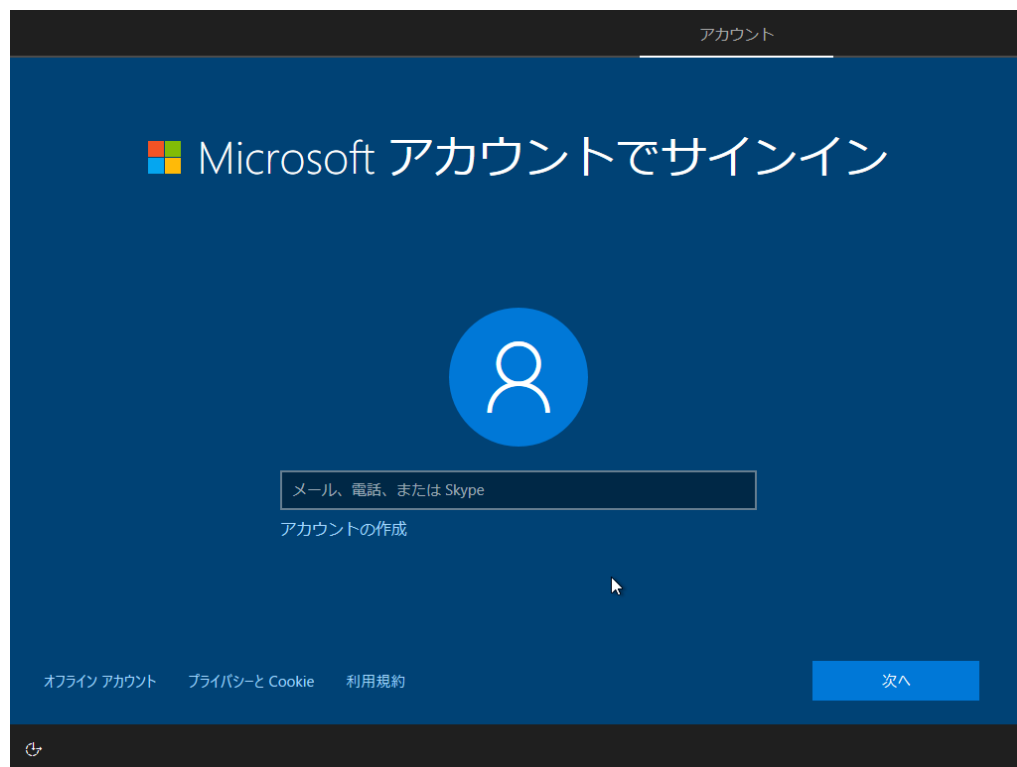
16.Windows10Proをインストールする場合、この画面が出てくる。

個人用に設定をクリックし、次へをクリック。

Windows10Homeの場合は出てこないが、気にしないでいい。

Windows10 Homeのインストールではこの画面が出ます。

Windows10 Proのインストールでは10ページ目を参照してください。



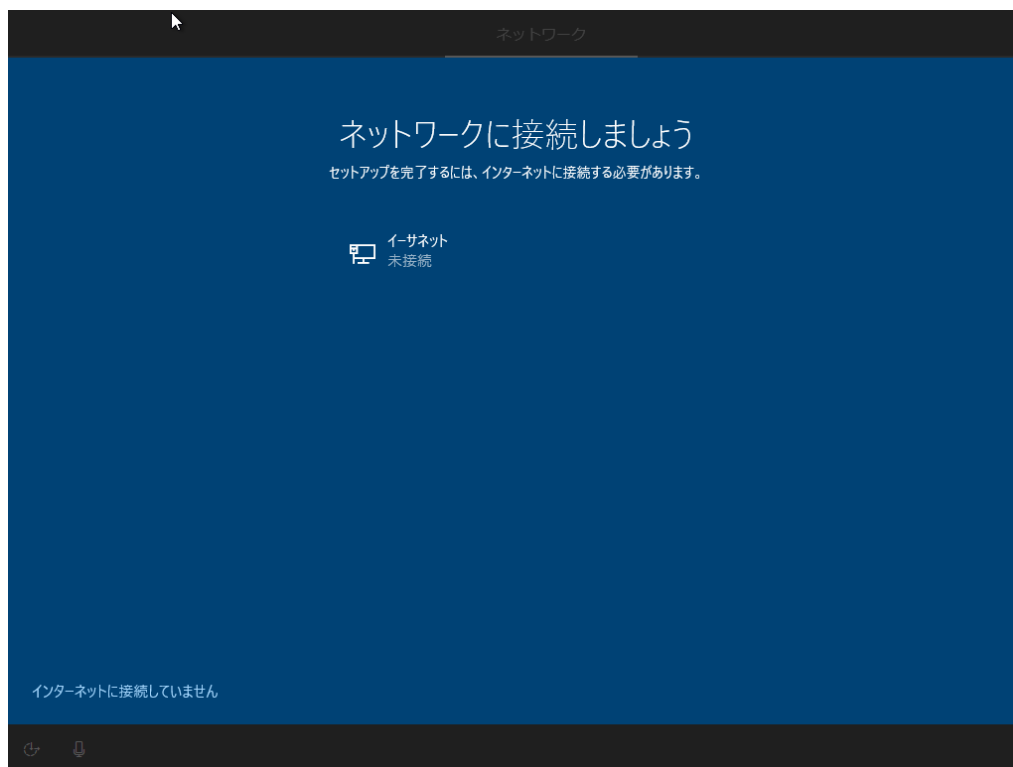
17H.オフラインアカウントをクリック。



18H.いいえをクリック。

Windows10 Proのインストールではこの画面が出ます。

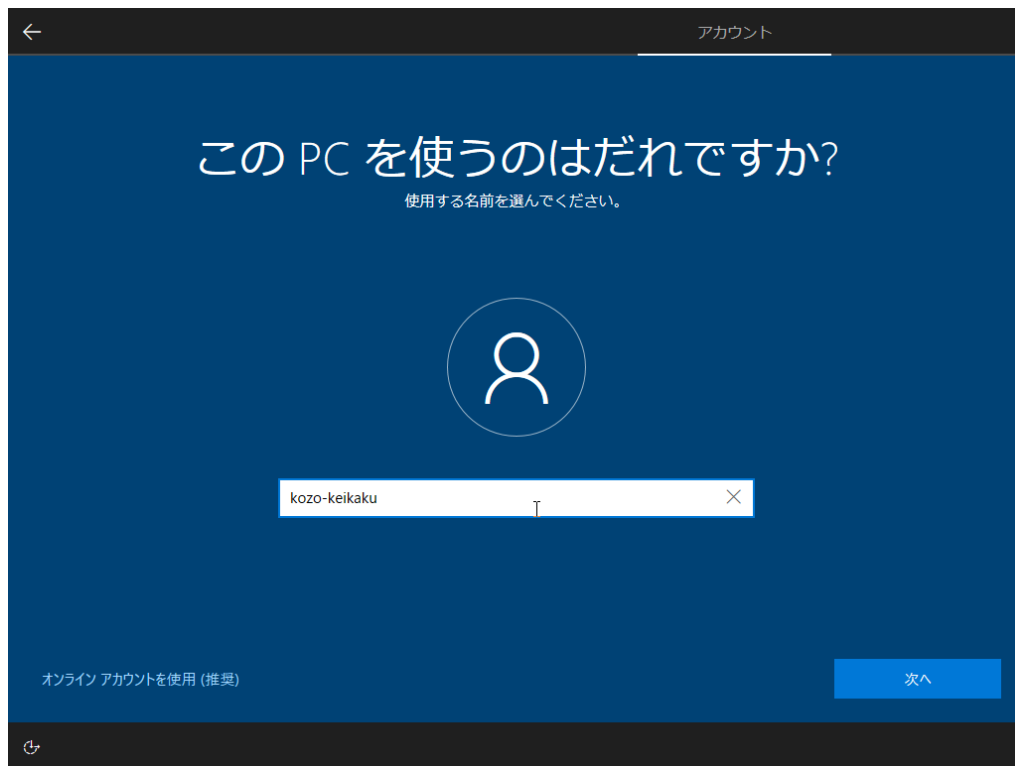
Windows10 Homeのインストールでは9ページ目を参照してください。



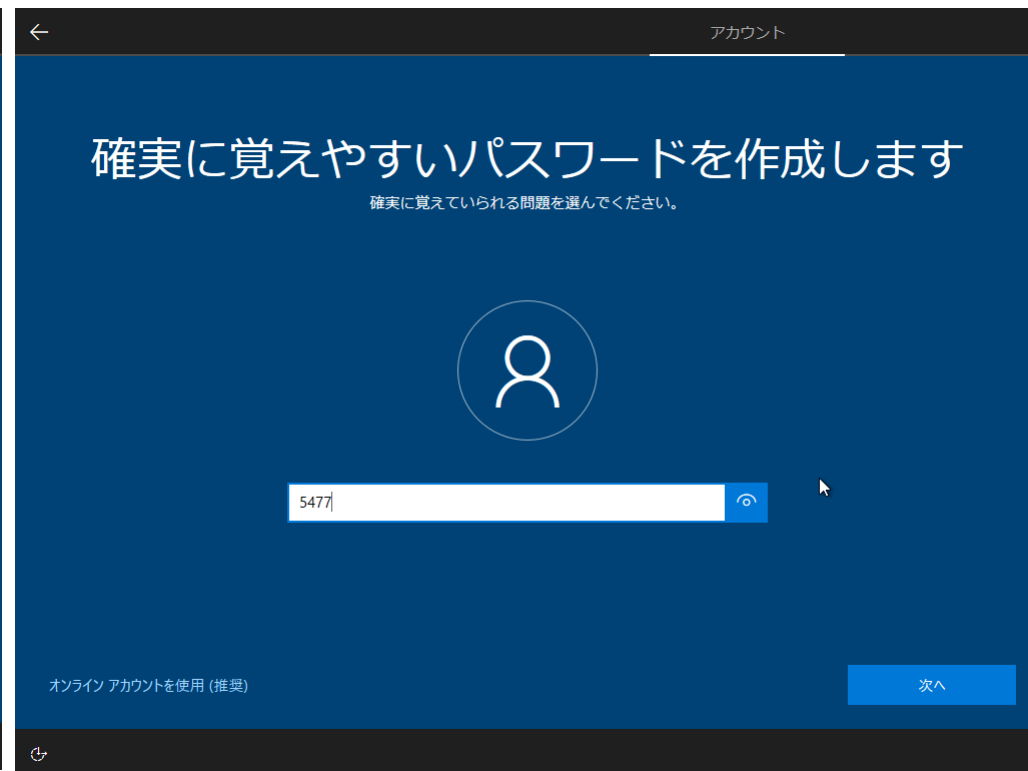
17P.インターネットに接続していませんをクリック。



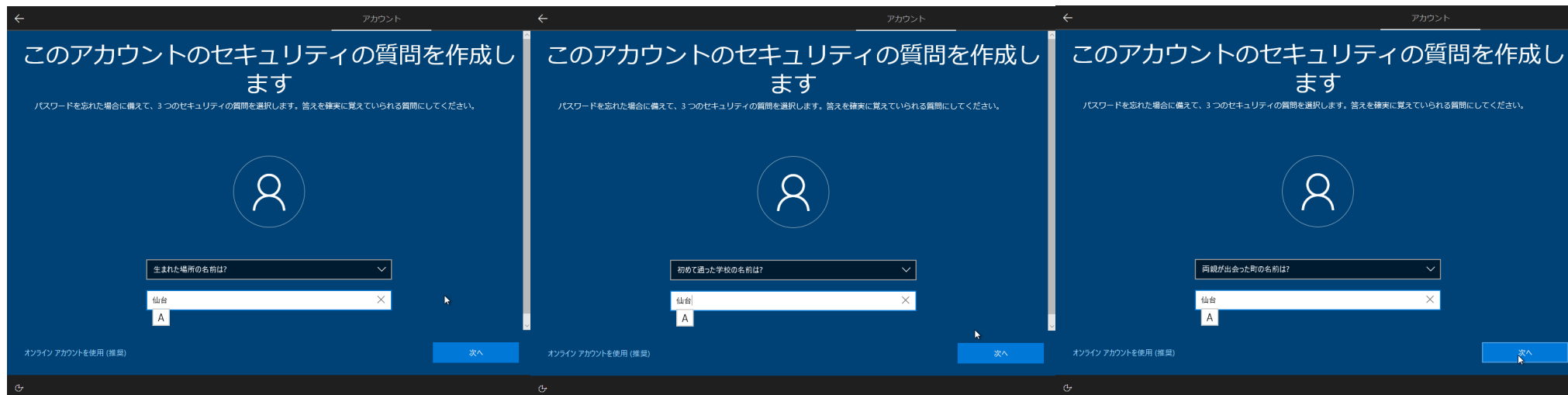
18P.制限された設定で続行するをクリック。



19. 『\*\*\*\*\*』と入力し、次へをクリック。



20. 『\*\*\*\*\*』と入力し、次へをクリック。



21-23. 『\*\*\*\*\*』 『\*\*\*\*\*』 『\*\*\*\*\*』 をそれぞれ正答を 『\*\*\*\*\*』 として次へをクリック。

順番もこの通りにすること



24.いいえをクリック。



25.拒否をクリック。





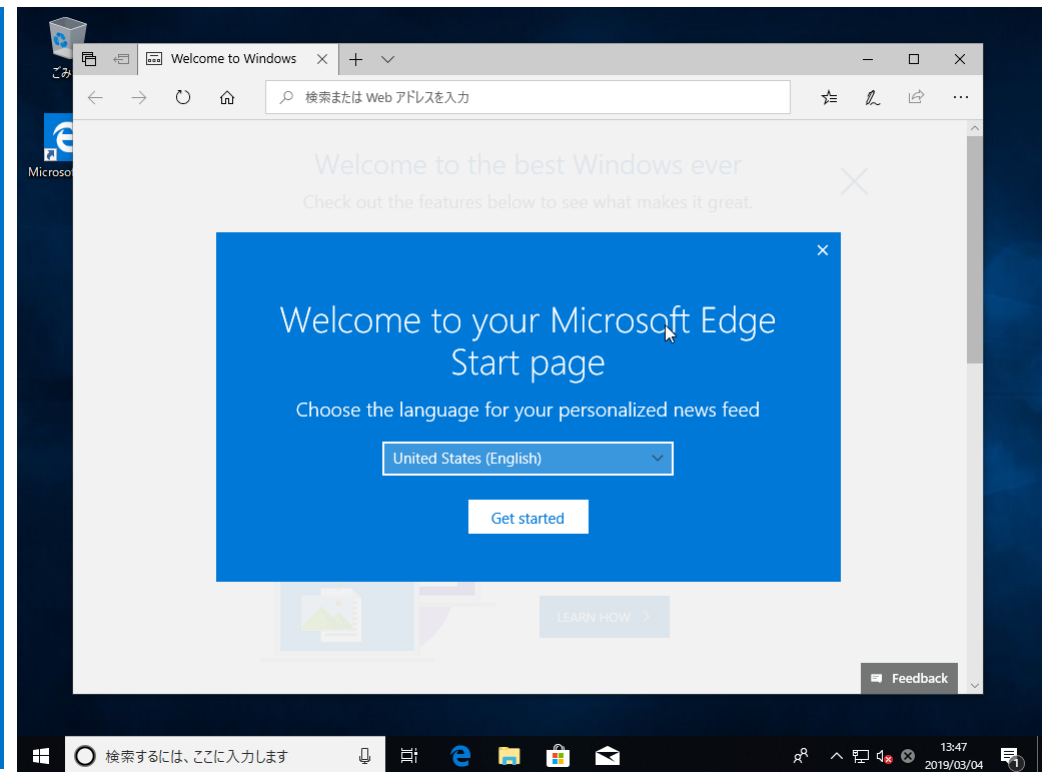
26-27.診断データは基本、他は全ていいえにして、同意をクリックする。



これには数分かかることがあります

PC の電源を切らないでください

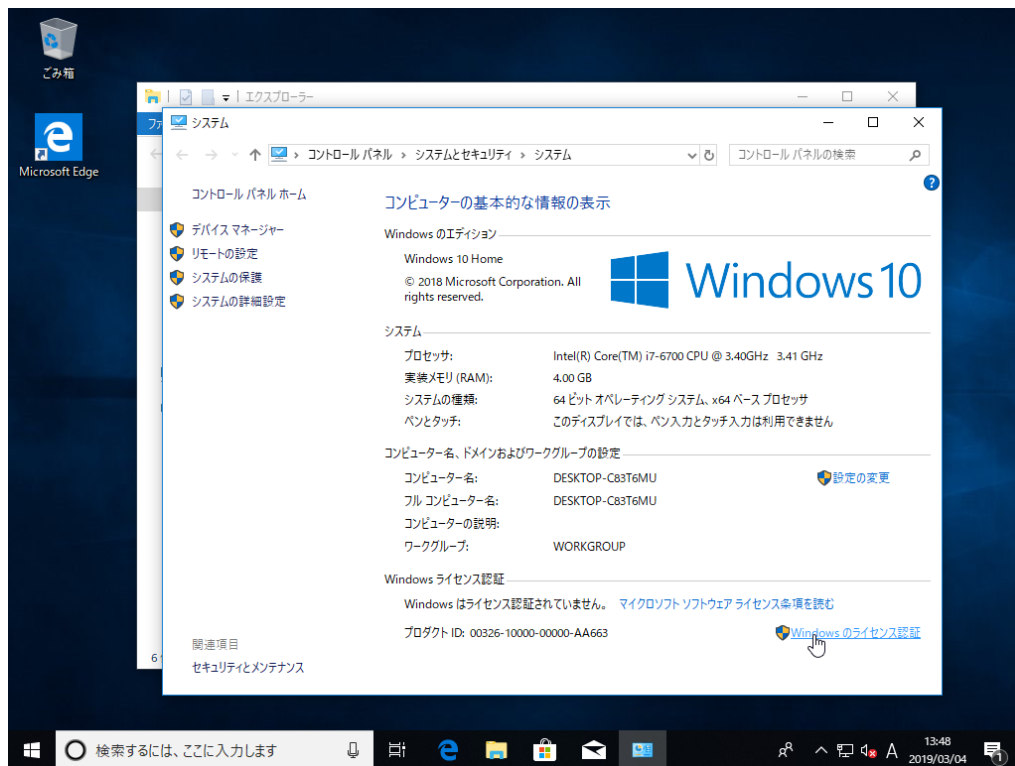
28.昔は大抵数分どころでは済まなかったが、Windows10は比較的予告通りであることが多い。



29.Microsoft Edgeの設定

日本語にする。

この段階でLANケーブルを接続する。

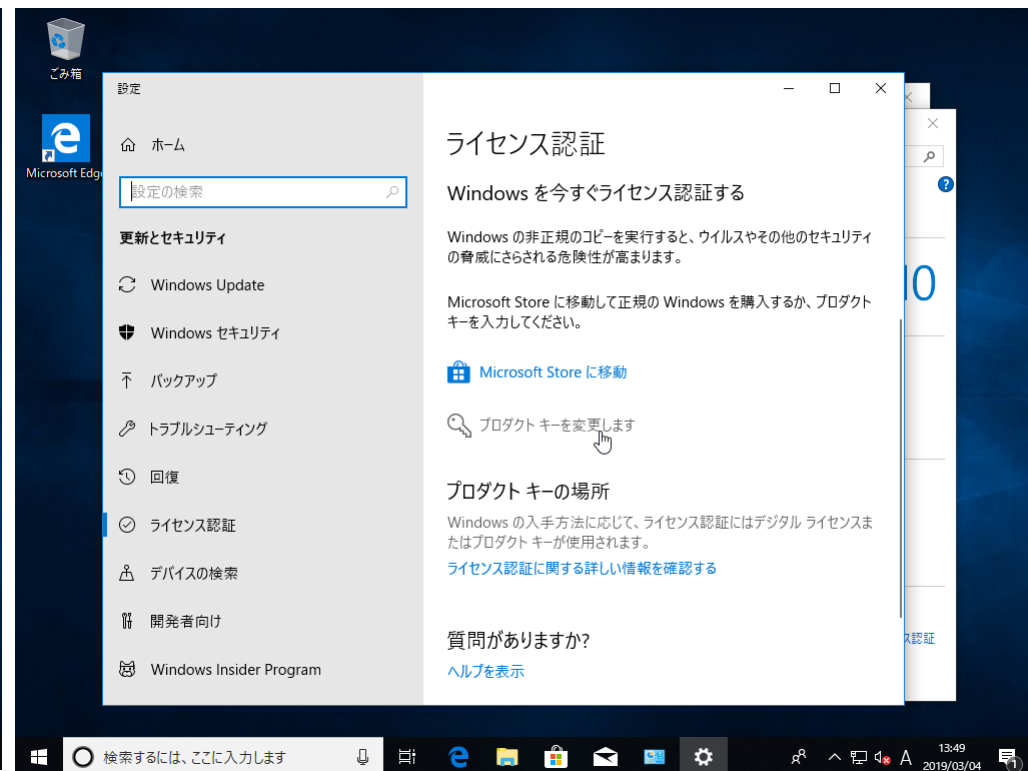


30. スタートボタンを右クリックし、エクスプローラーを起動。

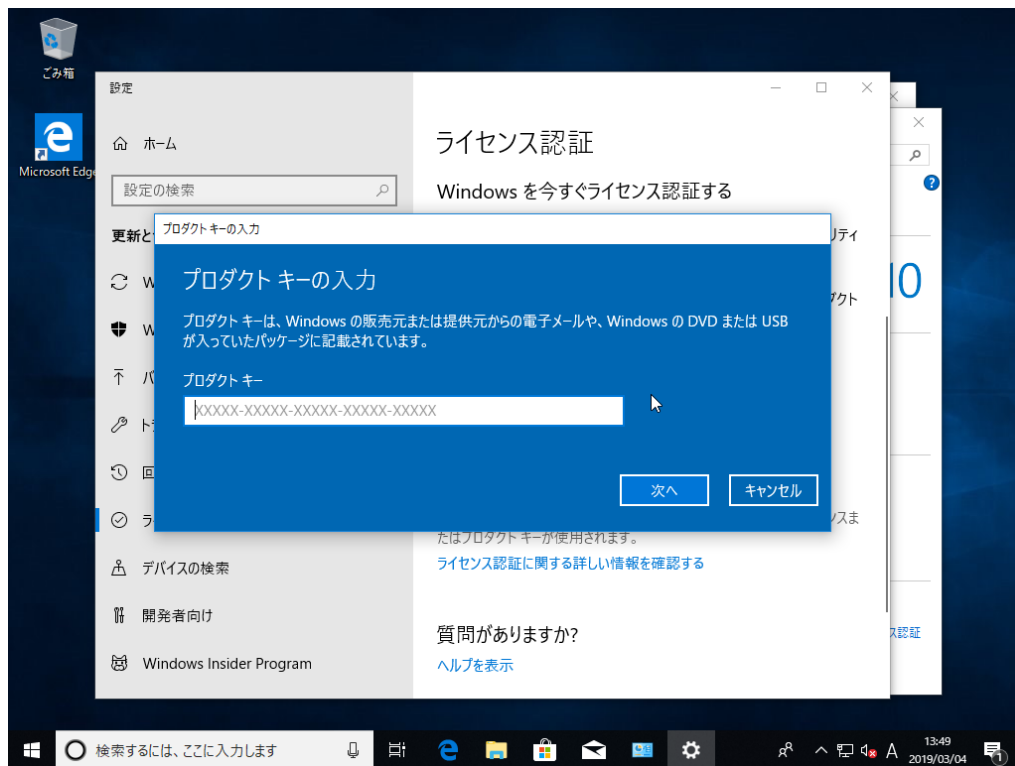
左ペインの中のPCを右クリックし、プロパティをクリック。

Windows ライセンス認証が、「Windowsはライセンス認証されています。」になっている場合、30,31,32の手順はスキップ。

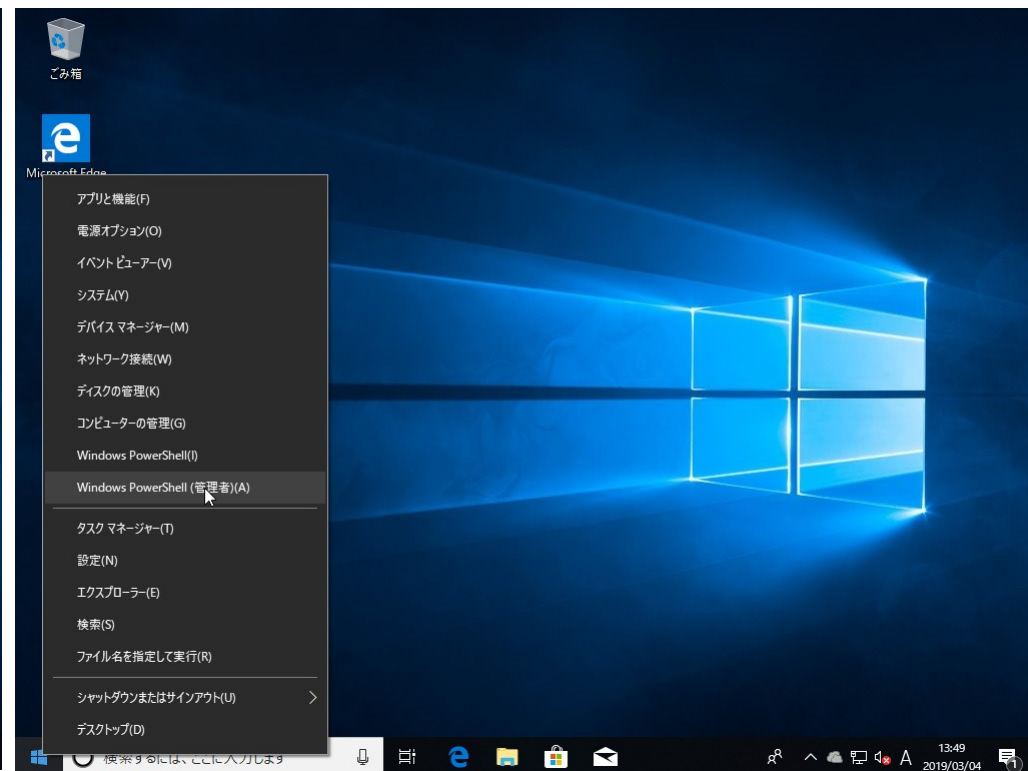
「Windowsはライセンス認証されていません。」になっている場合、Windows のライセンス認証をクリック。



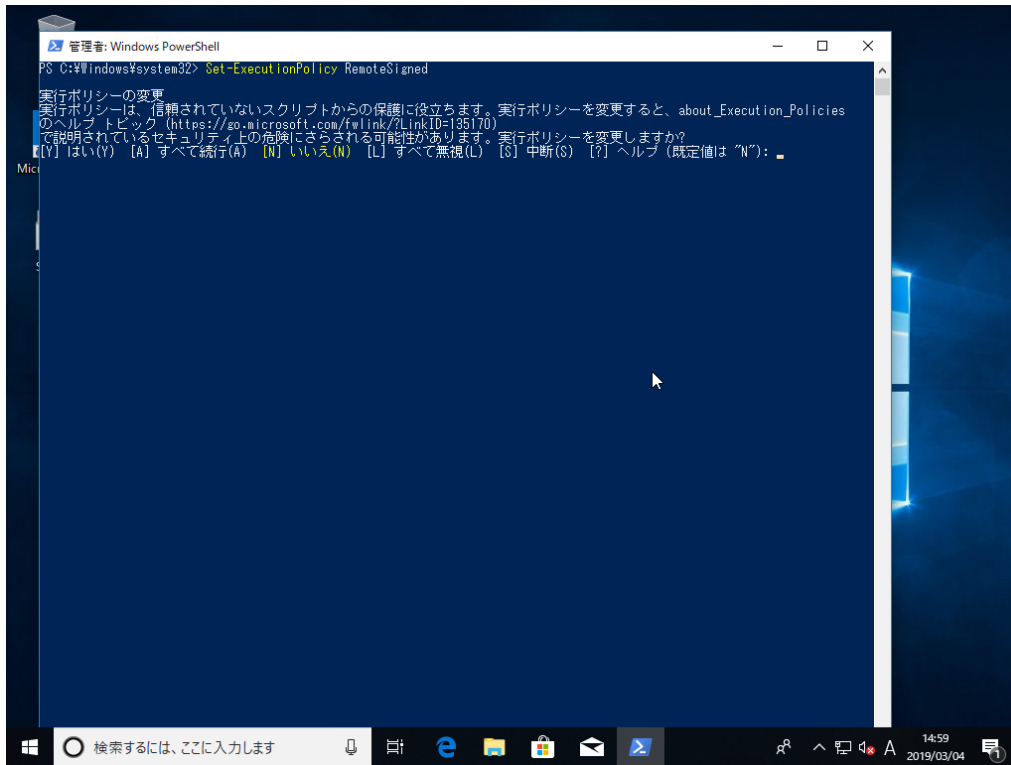
31. プロダクトキーを変更しますをクリック。



32.控えておいたWindows7のプロダクトキーを入力。



33.スタートボタンを右クリックし、WindowsPowerShell(管理者)を起動。



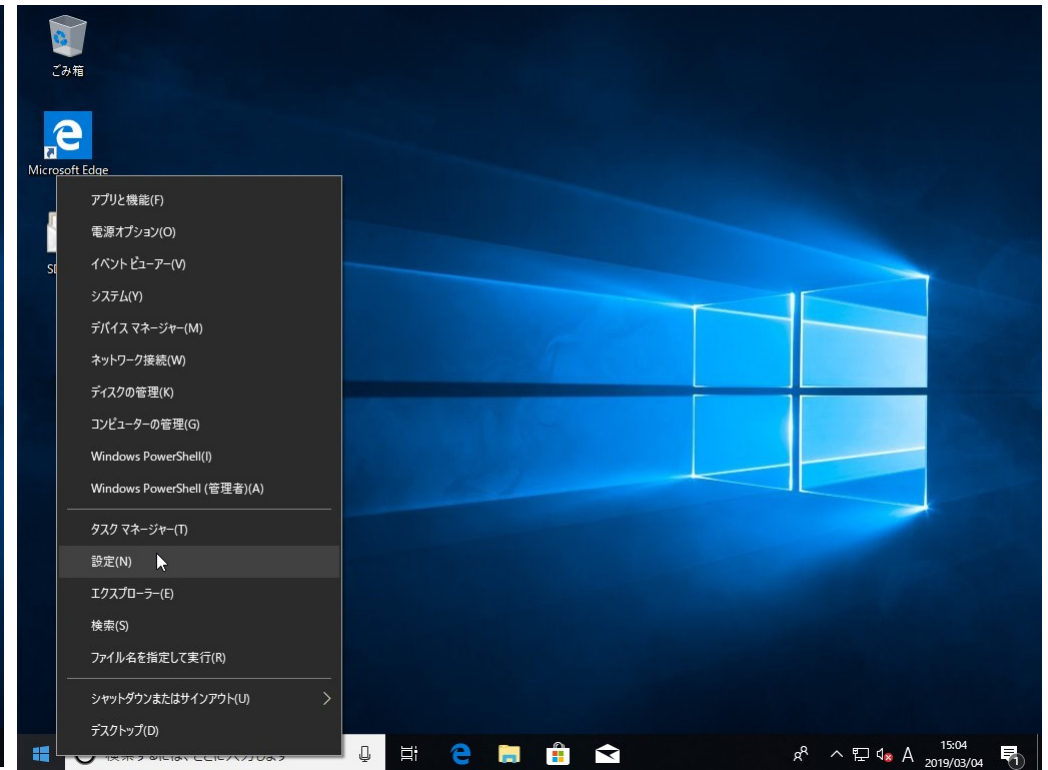
34. Set-ExecutionPolicy RemoteSignedと入力。

確認プロンプトが出るので、Aと入力。

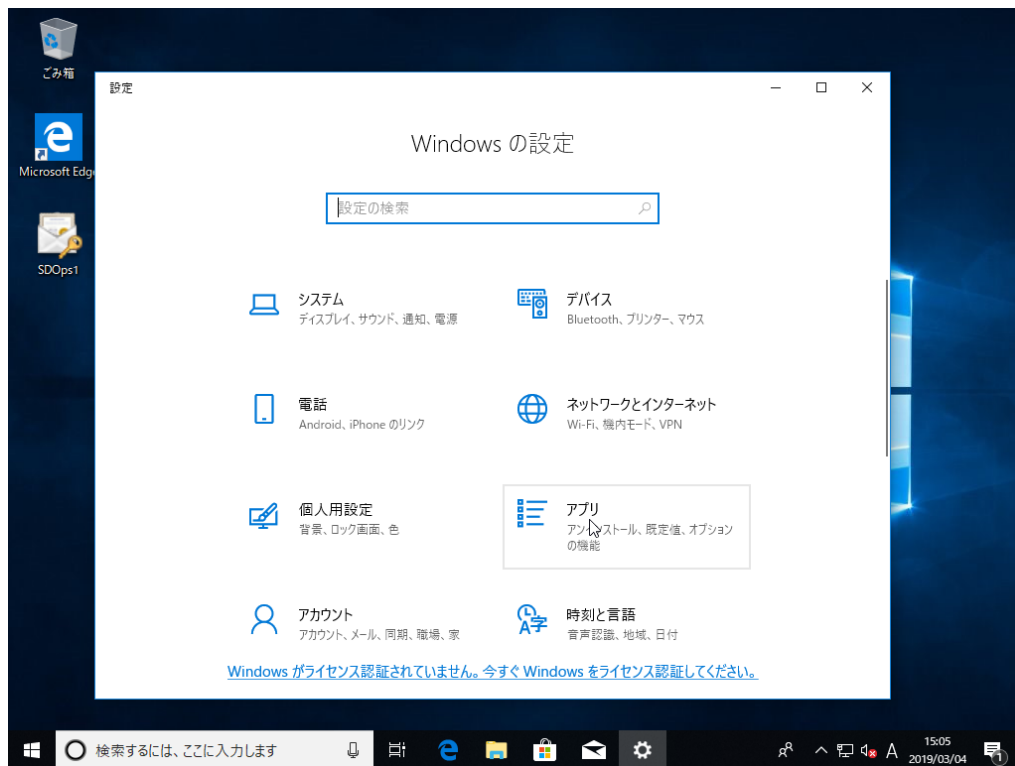
『Set-Ex』まで入力してTabキーを押すと、ecutionPolicyまで自動で入力される。

その後、『 Remo』※まで入力してTabキーを押すと、teSignedまで自動で入力される。  
※[半角スペース]Remo

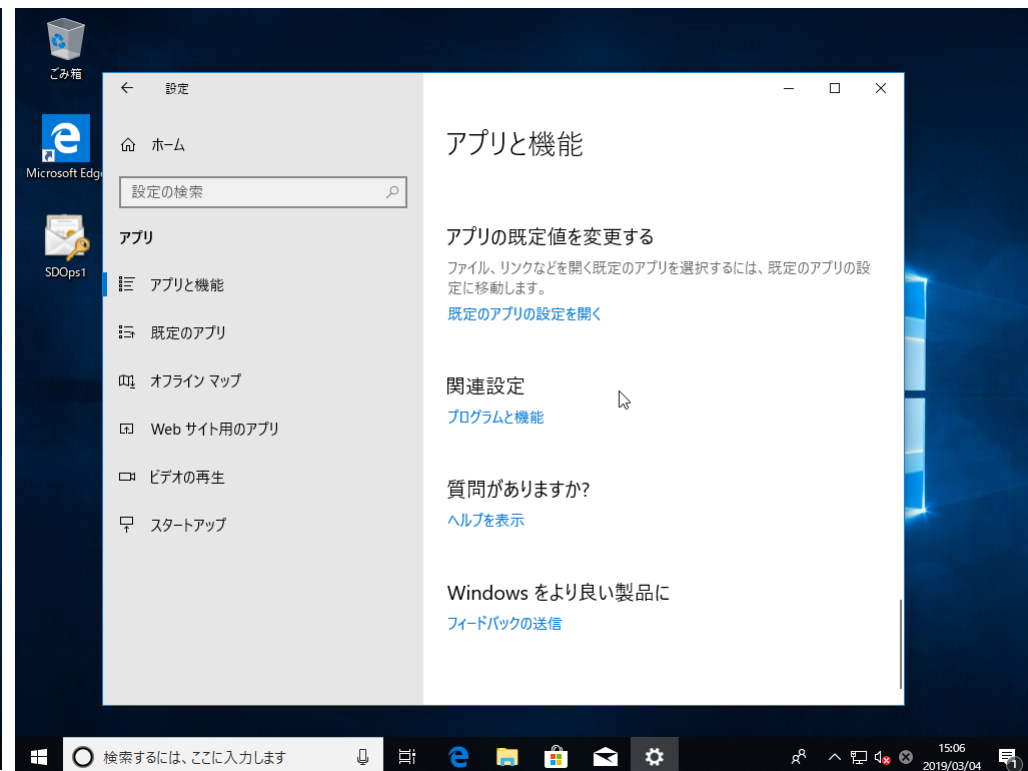
21



35. スタートボタンを右クリックし、設定を起動。

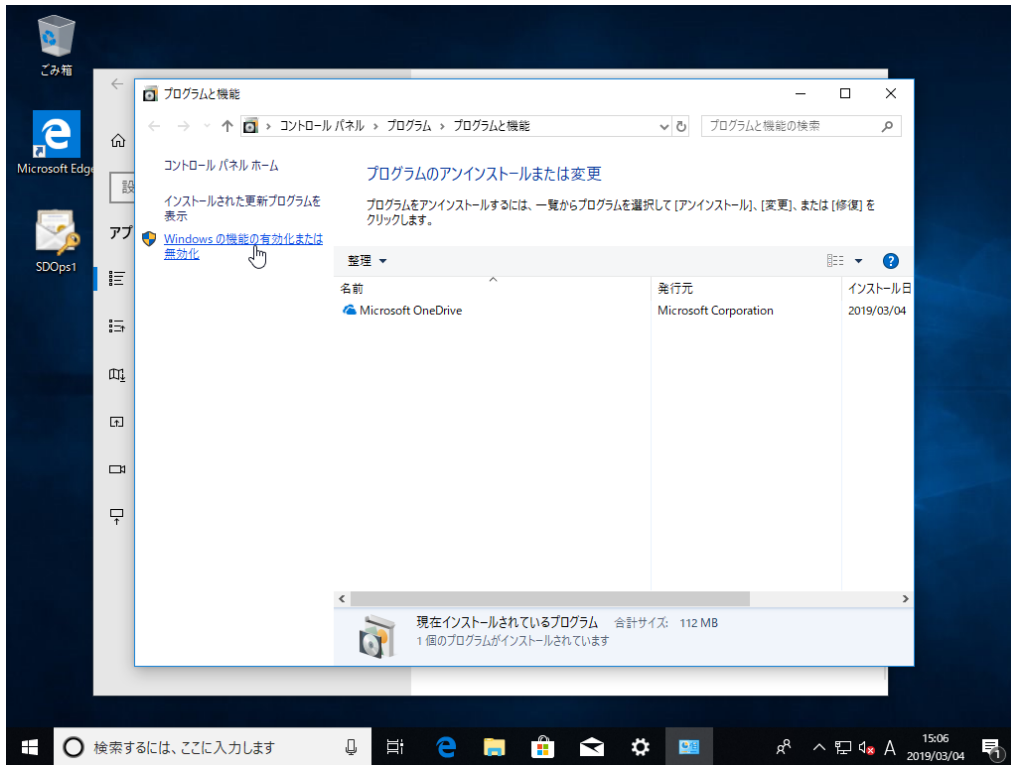


36. アプリをクリック。

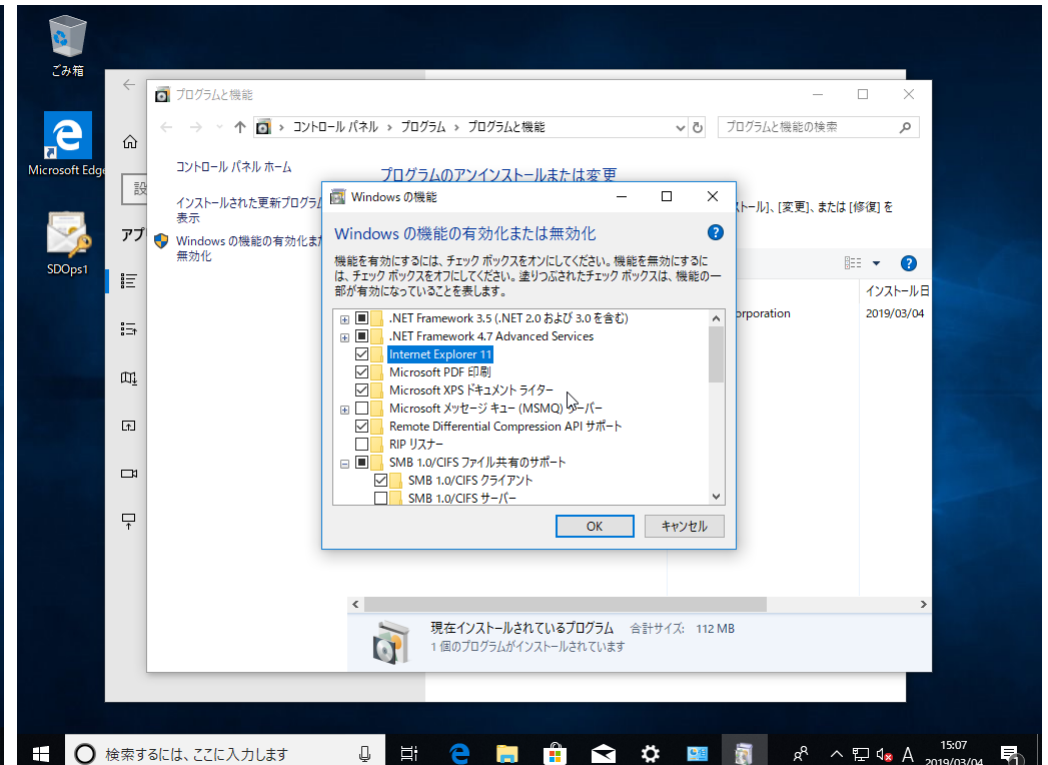


37. 下の方にある、プログラムと機能をクリック。

OSのバージョンやエディションによっては右上の方にあることもあり、今後は右下や左ペインに来ることも考えられるので、とにかく「アプリと機能」の中の、「プログラムと機能」を探す。



38.Windowsの機能の有効化または無効化をクリック。



39. .NET Framework3.5 ■

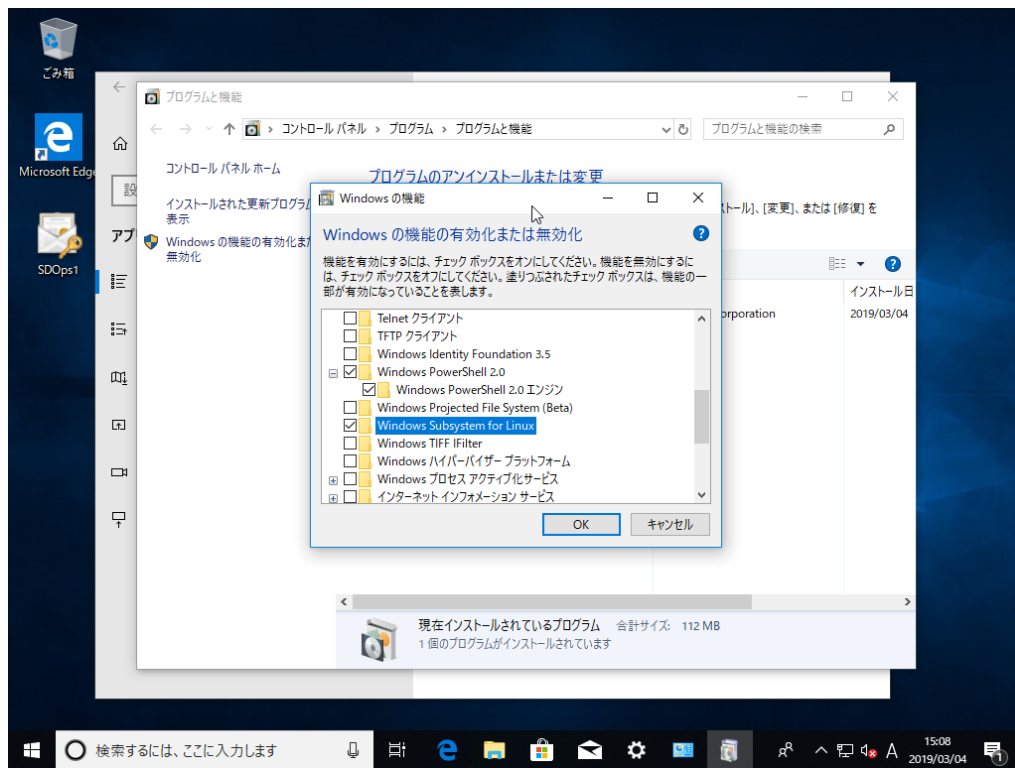
SMB 1.0/CIFS クライアント✓

SMB 1.0/CIFS サーバー □

SMB 1.0/CIFS 自動削除✓

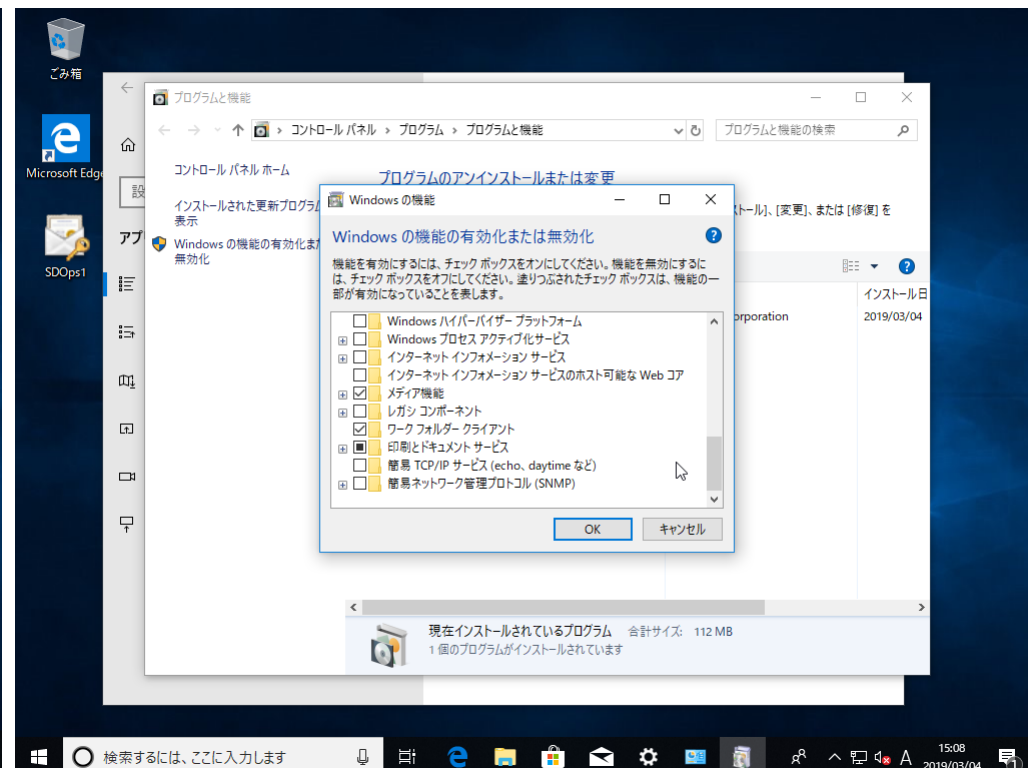
のチェック状態にする。





#### 40. Windows Subsystem for Linux ✓

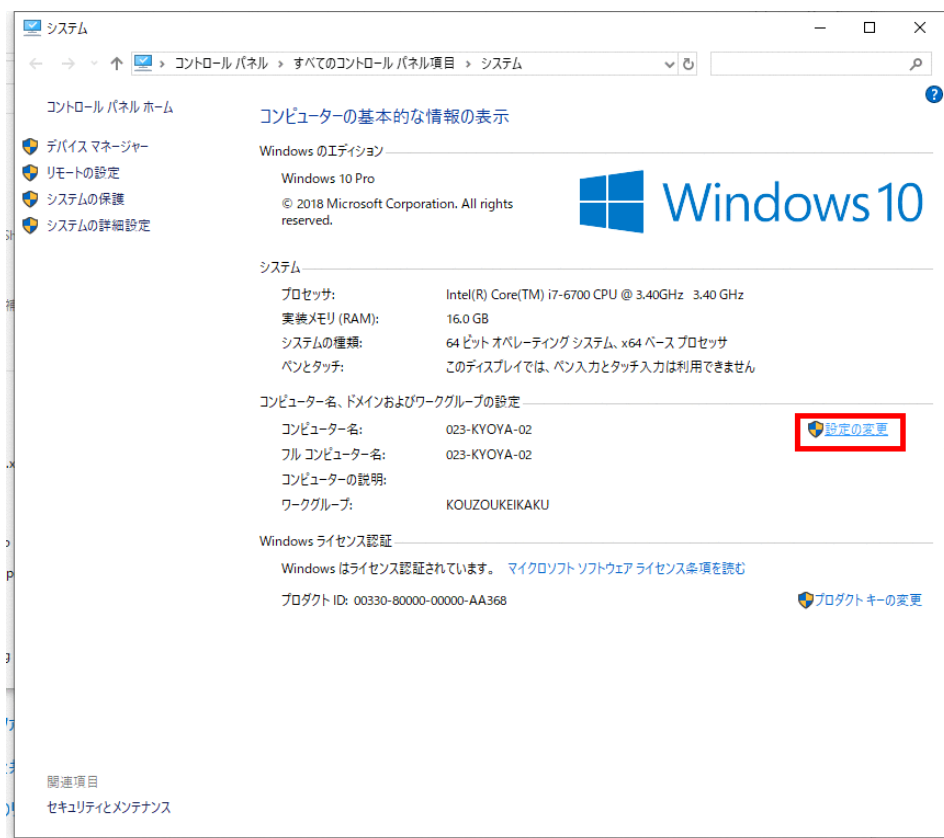
のチェック状態にする。



#### 41. インターネット インフォメーション サービス □

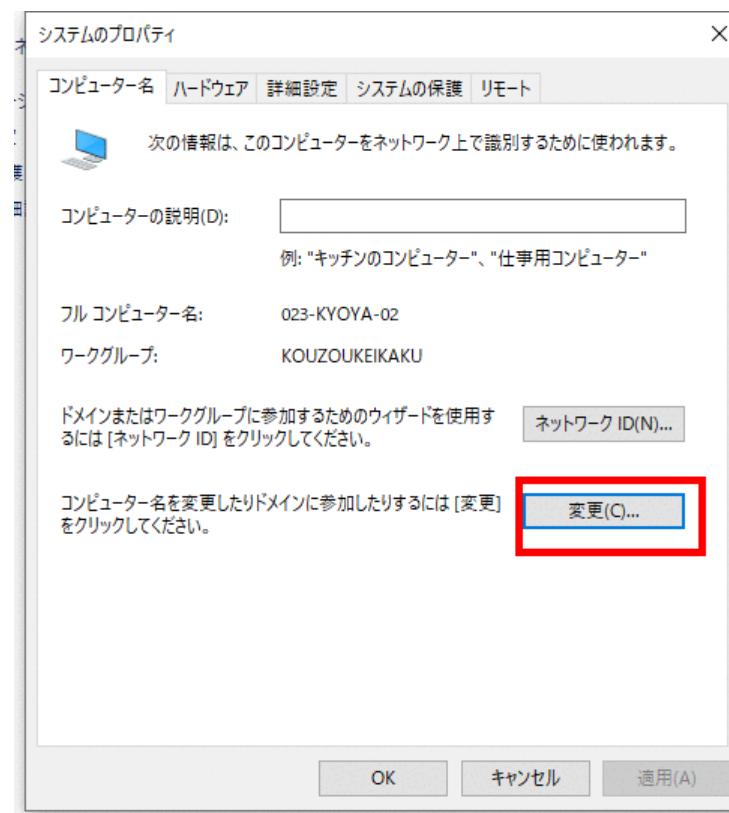
インターネット インフォメーション サービスのホスト可能な Web コア □  
のチェック状態にする。



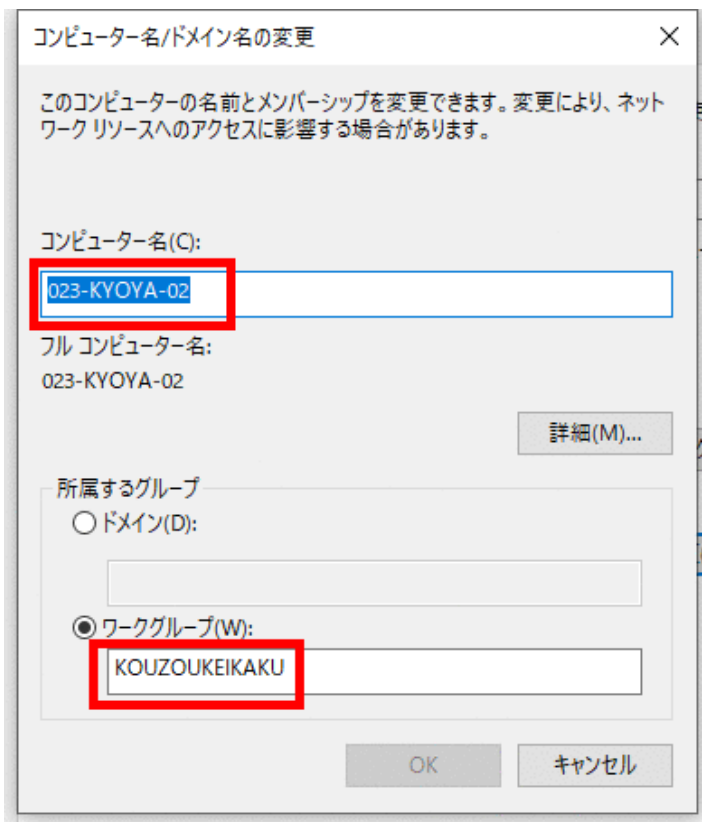


42.7の手順でシステムのコンピュータのプロパティを開く。

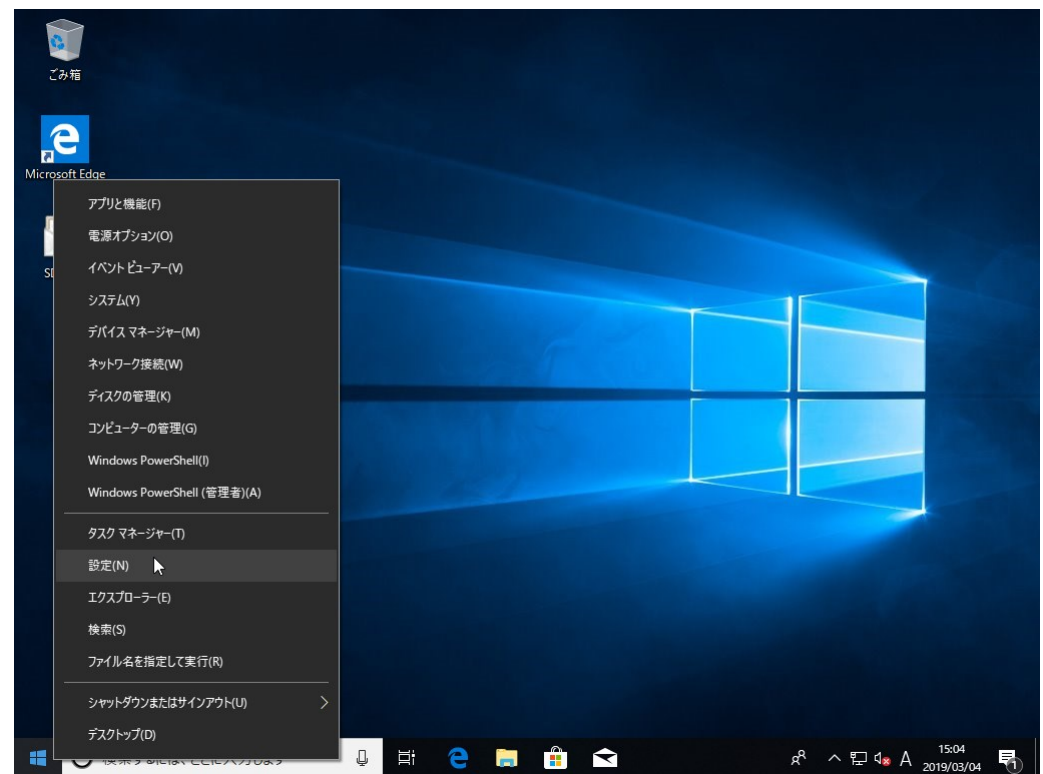
設定の変更をクリック。



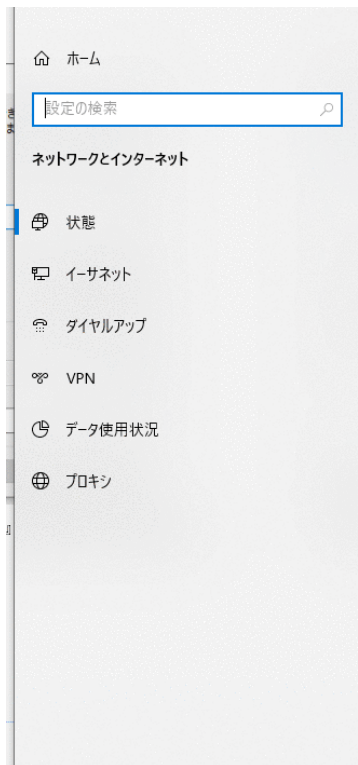
43.変更をクリック。



44.『パソコンインストール決まり』で指定された文字列を入力  
コンピューター名→『パソコンインストール決まり』のPC名  
ワークグループ→『パソコンインストール決まり』のワークグループ



45.スタートボタンを右クリックし、設定を開く。  
ネットワークとインターネットをクリック。



46.ネットワークと共有センターをクリック



47.共有の詳細設定の変更をクリック。

### 別のネットワーク プロファイル用に共有オプションを変更します

Windows では、使用するネットワークごとに別々のネットワーク プロファイルが作成されます。各プロファイルに対して、特定のオプションを選択できます。

プライベート

ネットワーク探索

ネットワーク探索を有効にすると、このコンピューターは他のネットワーク コンピューターやデバイスを参照できるようになり、また他のネットワーク コンピューターからもこのコンピューターを参照できます。

- ☒ ネットワーク探索を有効にする  
☒ ネットワークに接続されているデバイスの自動セットアップを有効にする。  
☐ ネットワーク探索を無効にする

ファイルとプリンターの共有

ファイルとプリンターの共有が有効な場合、このコンピューターで共有しているファイルとプリンターは、ネットワーク上のユーザーからアクセス可能になります。

- ☒ ファイルとプリンターの共有を有効にする  
☐ ファイルとプリンターの共有を無効にする

ゲストまたはパブリック

すべてのネットワーク

変更の保存 キャンセル

## 48. プライベート プロファイルの設定

ネットワーク探索を有効にする、ファイルとプリンターの共有を有効にするのラジオボタンと、ネットワークに接続されているデバイスの自動セットアップを有効にするのチェックボックスにチェックを入れ、変更を保存する。

コントロール パネル > すべてのコントロール パネル項目 > ネットワークと共有センター > 共有の詳細設定

すべてのネットワーク

パブリック フォルダの共有

パブリック フォルダの共有が有効な場合、ネットワーク上のユーザー（ホームグループのメンバーなど）はパブリック フォルダ内のファイルにアクセスできます。

☐ 共有を有効にして、ネットワーク アクセスがある場合はパブリック フォルダ内のファイルを読み書きできるようにする

☒ パブリック フォルダの共有を無効にする（このコンピューターにログオンしている場合はこれらのフォルダにアクセスできます）

メディア ストリーミング

メディア ストリーミングが有効である場合、ネットワーク上のユーザーとデバイスは、このコンピューター上のピクチャ、ミュージック、ビデオにアクセスできます。また、このコンピューターでネットワーク上のメディアを検出できます。

メディア ストリーミング オプションの選択...

ファイル共有の接続

Windows では、128 ビット暗号化を使用してファイル共有の接続が保護されます。デバイスによっては 128 ビット暗号化をサポートしないため、40 ビット暗号化または 56 ビット暗号化を使用する必要があります。

☒ 128 ビット暗号化を使用してファイル共有の接続を保護する（推奨）

☐ 40 ビット暗号化または 56 ビット暗号化を使用する（デバイスのためのファイル共有を有効にする）

パスワード保護共有

パスワード保護共有が有効の場合、このコンピューターでユーザー アカウントとパスワードを持つ人のみが、共有ファイル、このコンピューターに接続しているプリンター、パブリック フォルダにアクセスできます。他の人がアクセスできるようにするには、パスワード保護共有を無効にしてください。

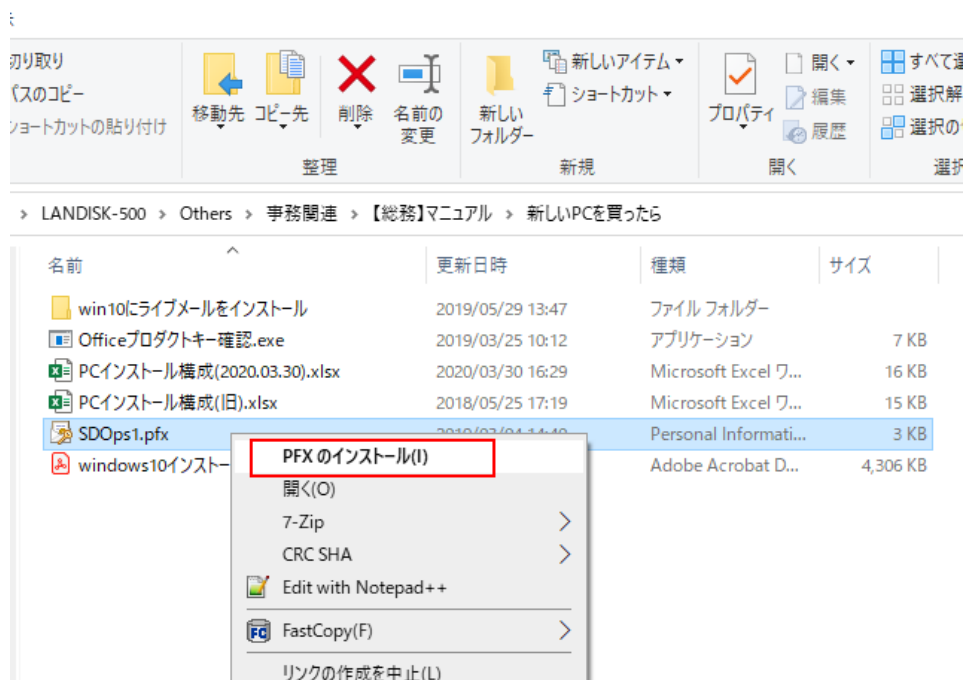
☒ パスワード保護共有を有効にする

変更の保存 キャンセル

## 49.全てのネットワークプロファイルの設定

パブリックフォルダの～～、128ビット暗号化を使用して～～、パスワード保護共有を無効にする、のラジオボタンにチェックを入れ、、変更を保存する。

(画像は「パスワード保護共有を有効にする」にチェックが入っているが、正しい設定は無効にするにチェックが入っている状態なので注意)



50. 「\\LANDISK-500\Others\事務関連\【総務】マニュアル\新しいPCを買ったら\SDOps1.pfx」を右クリックし、「PFXのインストール(I)」をクリック。

## 証明書のインポートウィザードの開始

このウィザードでは、証明書、証明書信頼リスト、および証明書失効リストをディスクから証明書ストアにコピーします。

証明機関によって発行された証明書は、ユーザー ID を確認し、データを保護したり、またはセキュリティで保護されたネットワーク接続を提供するための情報を含んでいます。証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

### 保存場所

- ☐ 現在のユーザー(C)
- ☒ ローカル コンピューター(L)

続行するには、[次へ] をクリックしてください。

51. 「ローカル コンピューター」にチェックを入れ、次へをクリック。  
UAC確認画面が出るので、はいをクリック。

#### インポートする証明書ファイル

インポートするファイルを指定してください。

ファイル名(F):

<-500¥Others¥事務関連¥【総務】マニュアル¥新しいPCを買ったら¥SDOps1.pfx

参照(R)...

注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます:

Personal Information Exchange- PKCS #12 (.PFX,.P12)

Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (.P7B)

Microsoft シリアル化された証明書ストア (.SST)

#### 秘密キーの保護

セキュリティを維持するために、秘密キーはパスワードで保護されています。

秘密キーのパスワードを入力してください。

パスワード(P):

●●●●●●●●

☐ パスワードの表示(D)

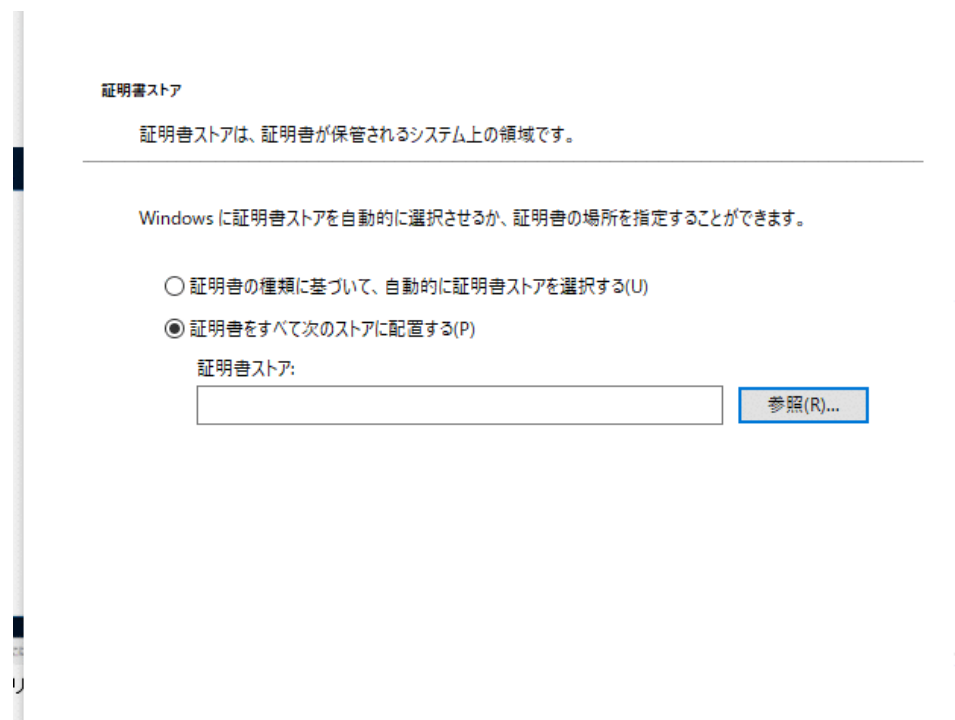
インポート オプション(I):

- ☐ 秘密キーの保護を強力にする(E)  
このオプションを有効にすると、秘密キーがアプリケーションで使われるたびに確認を求められます。
- ☐ このキーをエクスポート可能にする(M)  
キーのバックアップやトランスポートを可能にします。
- ☐ 仮想化ベースのセキュリティを使用して秘密キーを保護する(エクスポート不可)(P)
- ☒ すべての拡張プロパティを含める(A)

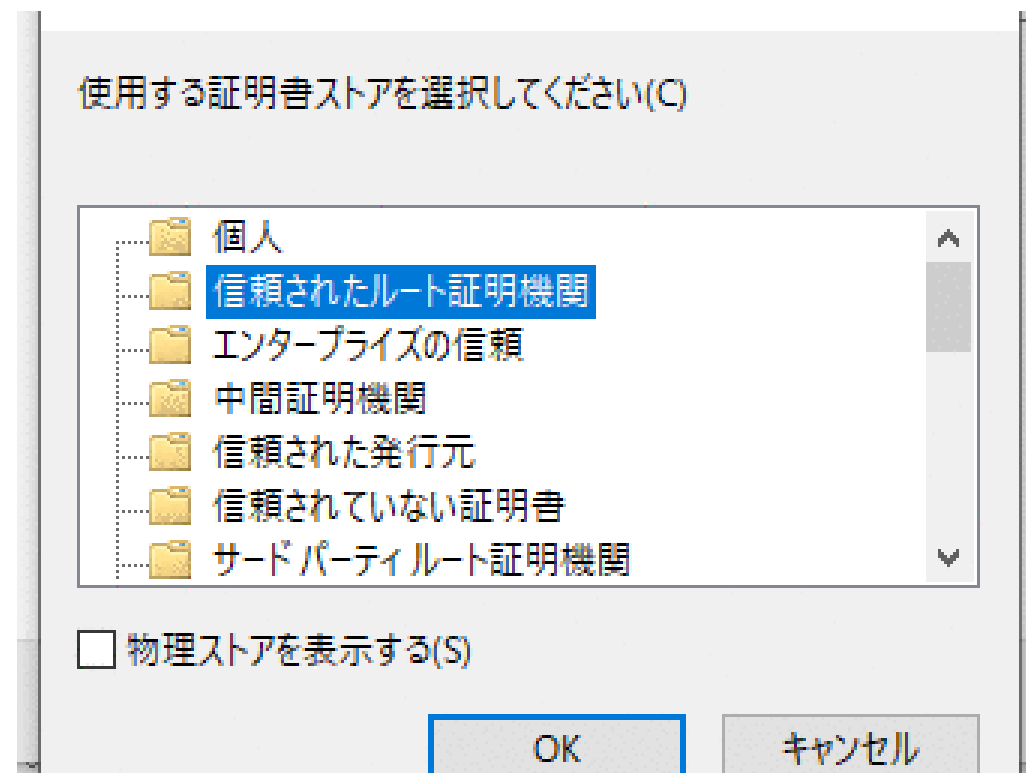
52.次へをクリック。

53.「すべての拡張プロパティ」のみにチェックが入っている状態でパスワードを入れ、次へをクリック。

パスワードは「koso5477」。



54. 「証明書を全て次のストアに配置する(P)」にチェックを入れ、参照をクリック。



525 「信頼されたルート証明機関」をクリックし、OKをクリック。  
次へをクリック。



## 証明書のインポートウィザードの完了

[完了] をクリックすると、証明書がインポートされます。

次の設定が指定されました:

ユーザーが選択した証明書ストア	信頼されたルート証明機関
内容	PFX
ファイル名	¥¥LANDISK-500¥Others¥事務関連¥【総務】マニュアル¥新しいPCを買...
<div>&lt; <div></div> &gt;</div>	

56.完了をクリック。